

【生薬名】 山茱萸 *CORNI FRUCTUS*

【起源植物】 サンシュユ *Cornus officinalis*



【科名】 ミズキ科 *Cornaceae*

【別名】 一名蜀酸棗（神農本草經）、杭萸肉（主産地が浙江省）
ハルコガネバナ（春黄金花）、アキサンゴ（秋珊瑚）

【薬用部分】 果肉、果実

【主成分】 有機酸、サポニン、イリドイド配糖体

【薬性】 気味は酸渋微温、帰経は肝腎に属す

【効能】 ●補益肝腎・渋精・斂汗

●5～10gを煎服、初老などで小便の回数が多いもの、小児の夜尿症、漢方で腎虚の症状に使う

●薬酒を1回に20mlを食後服用すれば、疲労回復、滋養強壮、病後や産後の滋養強壮に

『山茱萸酒』：山茱萸500g、グラニュー糖200g、柯伊トリカ-1.8ℓ、2～3ヶ月熟成

●山茱萸は足の厥陰、少陰の薬で滑脱に応用される

●滑脱とは身体の衰弱、長患い、下剤の誤使用により気虚や血虚になり、自律神経の失調、筋肉とくに括約筋の緊張低下が起こった状態で、便や尿、汗。清液などが漏れ出る、大腸や子宮が外に出る脱肛、子宮脱、さらには不正性器出血、月経過多、亡陽というショック状態などで多汗・体温低下などの締めりのない身体を引き締める作用があるとされている。

●強壮・収斂・補腎薬、遺精・頻尿・盗汗・腰膝疼痛・生理不順に応用する

【出典】 ●性温、精を渋り、髓を益し、腎虚、耳鳴、腰膝の痛みを止む。（薬性歌）

●治心下邪氣寒熱。温中。逐寒濕痺。去三蟲。久服輕身。（本經中品）

●中を温め、寒濕痺を逐い、腰膝を温め、水道を助け、小便利及び老人尿節ならざるを止め、耳鳴頭風を療するを主る。（古方薬議）

【備考】 ●山茱萸のエーテルエキス（特にウルソール酸・オレアノール酸）には血糖・尿糖の改善作用を示す

●山茱萸末にはインスリン様作用ならびにインスリン分泌促進作用も認められる

【処方例】 ●八味地黄丸、六味地黄丸、左帰飲